


第116回 歯科医師国家試験問題解説 正誤表

頁	項目	誤	正	訂正日
3	116A2	<p>解き方 血清中の免疫グロブリンはIgG、IgM、IgA、IgD、IgE の順に多いため、 ～ 解説 × a: IgAは血清中ではIgMの次に多く含まれ、唾液中には二量体のsIgA(分泌型IgA)が多く含まれ、粘膜免疫に関与する。しかし、歯肉溝滲出液中で最も多い免疫グロブリンではない。 × e: IgMはIgGの次に多く血清中に含まれる免疫グロブリンである。五量体で、一次免疫応答で最初に産生される抗体である。</p>	<p>解き方 血清中の免疫グロブリンはIgG、IgA、IgM、IgD、IgE の順に多いため、 ～ 解説 × a: IgAは血清中ではIgGの次に多く含まれ、唾液中には二量体のsIgA(分泌型IgA)が多く含まれ、粘膜免疫に関与する。しかし、歯肉溝滲出液中で最も多い免疫グロブリンではない。 × e: IgMはIgAの次に多く血清中に含まれる免疫グロブリンである。五量体で、一次免疫応答で最初に産生される抗体である。</p>	2023/10/5
123	116B2 解き方(画像所見)	→①～③は重 書 扁平上皮を構成しており、④も合わせて嚢胞壁であることがわかる	→①～③は重 層 扁平上皮を構成しており、④も合わせて嚢胞壁であることがわかる	2023/9/19
214	116B73 c肢 解説	× c: 先天性表皮水疱症は外胚葉性疾患であり、皮膚症状が主体である。中胚葉由来である心血管系には形態異常を認めない。口腔内の症状として、 多数歯先天欠損 、エナメル質形成不全がある。	× c: 先天性表皮水疱症は外胚葉性疾患であり、皮膚症状が主体である。中胚葉由来である心血管系には形態異常を認めない。口腔内の症状として、エナメル質形成不全、 多発性齲蝕 などがある。	2024/1/10
432	116D58 + α	 <p>根管形成用バー</p>	<p>(画像を削除)</p> <p>※画像は根管形成用バーではなくゼックリアバーであるため</p>	2023/11/15